

千葉県感染症発生動向調査情報

2014年 第19週 (5/5-5/11) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		19週	18週	17週	16週
小児科		17	14	17	17
眼科		5	2	5	5
インフルエンザ*		27	23	27	27
基幹定点		1	1	1	1

上段:患者数
下段:定点当たりの患者数
「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	注意報	千葉県				千葉県 4/28-5/4 18週
			5/5-5/11	4/28-5/4	4/21-4/27	4/14-4/20	
			19週	18週	17週	16週	
小児科	RSウイルス感染症		0	0	0	4	5
	咽頭結膜熱	○	6	0	1	1	35
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		22	18	43	27	223
	感染性胃腸炎		93	106	119	91	658
	水痘		13	10	8	10	116
	手足口病		1	1	0	1	4
	伝染性紅斑		3	2	2	3	26
	突発性発しん		13	9	16	11	54
	百日咳		0	0	0	2	0
	ヘルパンギーナ		0	0	1	1	2
流行性耳下腺炎		3	0	4	3	36	
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)		14	38	89	100	273
眼科	急性出血性結膜炎		0	0	0	0	1
	流行性角結膜炎		1	0	2	1	4
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	0
	無菌性髄膜炎		0	0	0	0	0
	マイコプラズマ肺炎		0	0	0	0	2
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0	0	0	0	0
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0	0	0	0	2

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(3件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	30歳代	画像診断	アメーバ赤痢	女性	30歳代	血清抗体の検出
結核	男性	60歳代	病原体等の検出等	-	-	-	-

・結核2件(80)、アメーバ赤痢1件(2)の報告があった。

()内は2014年累積件数 ※ 累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第19週のコメント

<咽頭結膜熱>前週より増加し0.35となった。過去10年の同時期と比べると多め。

■ トピック ■

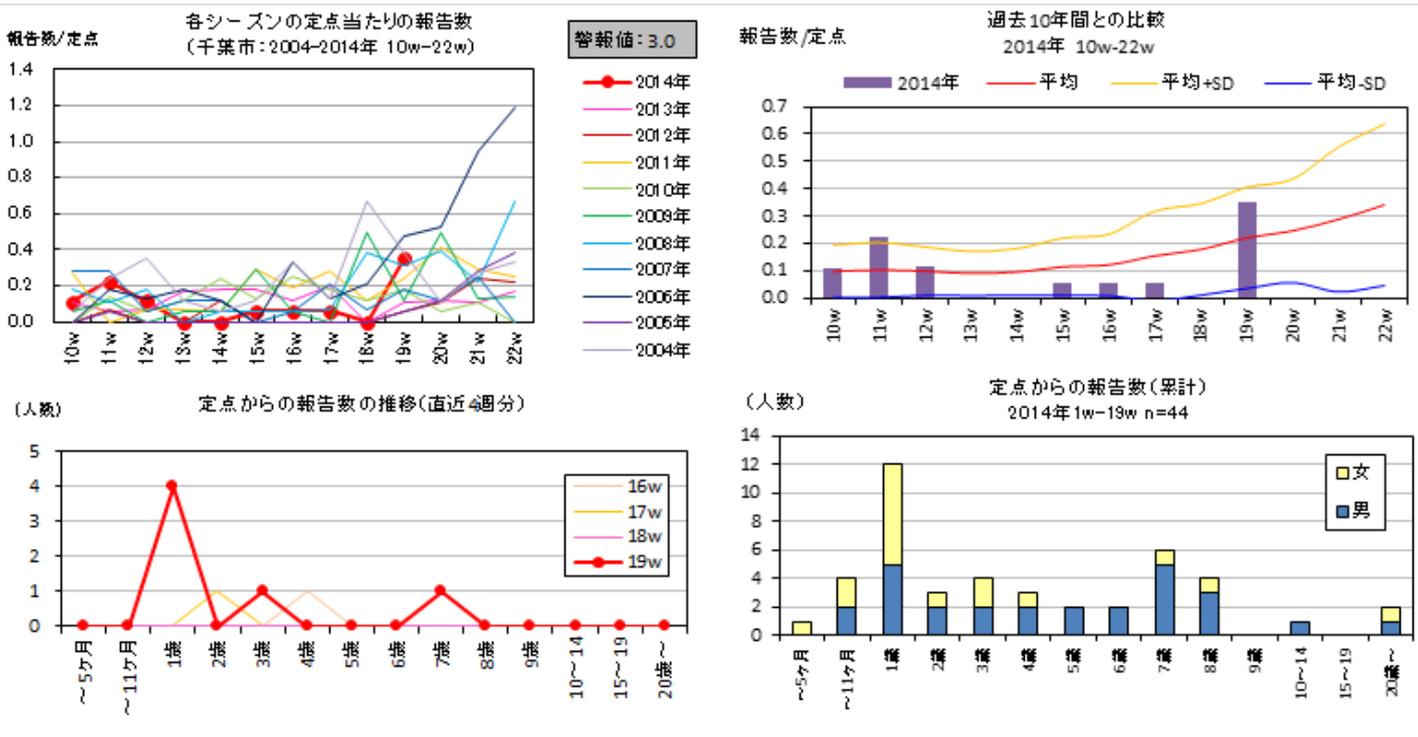
＜咽頭結膜熱＞

全国レベルは昨年後半から2014年にかけて高いレベルで推移しており、第13週以降連続して過去7年間の同時期と比べると最多の状態が続いており、第18週現在も同様に最多となっています。都道府県別では鹿児島県、宮崎県、富山県及び石川県の順に多く発生しています。千葉県は全国レベルと比べると少なめとなっています。千葉市の第19週は前週より増加し0.35となり、過去10年間の同時期と比べると多めの状況となっています。区別の発生状況は、中央区で最多で同区の1歳で発生しました。

咽頭結膜熱は、家族内での飛沫感染、患者とのタオルの共用などによる接触感染や、プールでの集団感染がみられ、プール熱とも呼ばれます。主にアデノウイルスと呼ばれるウイルスが原因で、5～7日の潜伏期後、39℃前後の発熱で発症し、他に全身倦怠感とともに咽頭痛、目の結膜炎が主症状で、嘔吐や下痢を伴うこともあります。

過去の感染症発生動向調査からみると夏期に流行の山がみられ、通常、6月頃から徐々に増加しはじめ、7～8月にピークを形成しますが、本来は季節による特異性がなく年間を通じて発生します。

予防対策として、感染者との密接な接触を避けること、うがいや手指の消毒が挙げられます。消毒方法は、手指に対しては流水と石鹼による手洗いおよび90%エタノール、器具に対しては煮沸、次亜塩素酸ナトリウムを用います。逆性石鹼、イソプロパノールには抵抗性で、これらは効き目がないので注意してください。



＜梅毒＞

2014年の全国レベルの第18週現在の発生届累積数は455件となり、過去8年間で最多であった昨年の同時期を上回っています。都道府県別では、東京都、大阪府、愛知県の順で発生が多く報告されています。千葉県は全国で5番目に多くなっています。千葉市は昨年の発生届出数は14件で過去10年で最多となっており、20歳代から40歳代に集中して発生しました。2014年第19週現在の発生届累積数は6件で、過去10年の平均レベルとなっています。性別では男性5名及び女性1名、年齢は20歳代、30歳代及び50歳代がそれぞれ2名ずつとなっています。

梅毒は、梅毒トレポネマ(*Treponema pallidum*)による性感染症で、主に菌を排出している感染者との粘膜の接触を伴う性行為や疑似性行為によって感染します。妊婦が感染すると、胎盤を通じて胎児に感染し、先天梅毒となります。潜伏期は3週間程度で、感染部位の病変を始めとして全身に至り、発熱、倦怠感、リンパ腺症、粘膜疹、扁平コンジローマ、脱毛、髄膜炎、頭痛などを起こし、その後神経症状等様々な症状が出現します。予防としては、感染者との性行為、疑似性行為を避けることが基本です。コンドームの使用は効果はあるものの、疫学データからすると淋菌感染症の場合ほどには完全でないといわれています。

